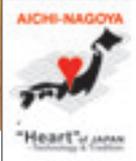




# サムライトラベル愛知



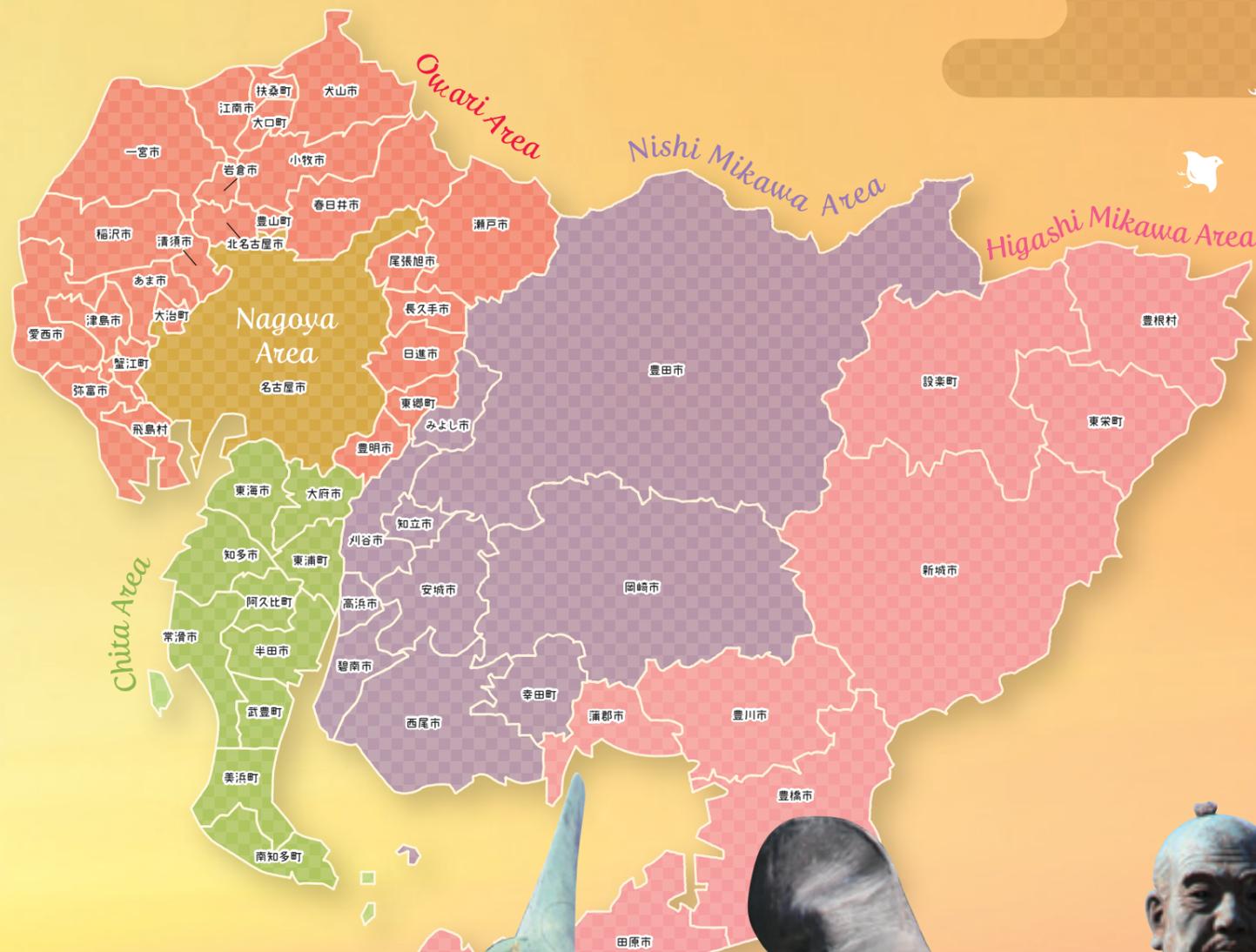
〈武将のふるさと愛知〉を、とくにご覧あれい！



©長野 剛

# あの歴史の舞台を訪ね、 あの戦国武将と出会う旅。

愛知県は、戦国三英傑といわれる織田信長・豊臣秀吉・徳川家康をはじめ、個性豊かな戦国武将たちを数多く輩出した〈武将のふるさと〉。そのため愛知県内には武将たちにゆかりのある城、寺社、古戦場などの史跡や伝説が数多く残されている。彼らの面影を求め、ゆかりの地を訪ねれば時を越えた歴史ロマンが待っている。さあ、武将のふるさと愛知へ。



## Contents

尾張エリア	03
コラム：愛知は城の野外博物館	06
名古屋エリア	07
知多エリア	10
「武将のふるさと尾張・三河」から全国へ飛び立った武将たち	11
西三河エリア	13
東三河エリア	16

### 日本100名城・続日本100名城について

日本100名城、続日本100名城は、公益財団法人日本城郭協会が日本を代表する文化遺産であり地域の歴史的シンボルでもある城郭、城跡を、多くの人に知ってもらい、関心を高め、ひいては地域文化の振興につながることを念じて設定した名城のことです。愛知県内にも指定された100名城が複数あります。詳しくは中面をご覧ください。

表紙イラスト／長野剛＋名古屋まつり協進会

P1、2背景写真／国宝犬山城

P2写真／加藤清正像(妙行寺：名古屋)、織田信長像(清洲公園：清須市)、徳川家康像(岡崎公園：岡崎市)

【参考文献】歴史群像シリーズ特別編集「日本100名城公式ガイドブック」、

歴史群像シリーズ特別編集「続日本100名城公式ガイドブック」(公財)日本城郭協会・監修 学研プラス／

「愛知の山城ベスト50を歩く」愛知中世城郭研究会編著、中井均編著 サンライズ出版／

歴史REAL「天下人の城」(洋泉社)／「愛知の武将ここにあり：武将のふるさと愛知100選」愛知県観光コンベンション課

## 本冊子の読み方ガイド

今川・武田・松平の攻防が繰り広げられた東三河の拠点

◆04 **吉1城** (豊橋市) 純日本 100選 印 6

豊川を天然の堀とした巨城。後年、姫路城を築いた池田輝政が近世城郭として整備・拡張しました。石垣や堀が随所に残っており、鉄櫓(くろがねやぐら)が再建されています。本丸周辺の石垣の中には名古屋城築城の際に残った石材が転用され、さまざまな印が刻まれた石が確認できます。



**Outline**  
 ① 〒440-0801 豊橋市今橋町3  
 ② 無料  
 ③ 【吉田城鉄櫓の内部公開】火/水/木/金/土/日 10:00~15:00  
 ④ 月曜日及び12月31日(月曜日の場合は翌日休館)  
 ⑤ 0532-51-2430 豊橋市観光振興課(吉田城) (豊橋公園に関しては豊橋市公報課 0532-51-2650)

- ① スポット名
- ② スポット写真  
各スポットの見所がわかります
- ③ スポット説明文  
各スポットのエピソードをわかりやすく解説しています
- ④ スポットアウトライン  
各スポットの住所などの情報を載せています  
※料金等は変更になる可能性がありますので公式サイト等でご確認ください。
- ⑤ (一社)愛知県観光協会Webサイト「Aichi Now」の、各スポットの情報が記載されているページへ飛びます  
(一部例外あり。二次元バーコードを読み取ってください)
- ⑥ 「御城印(登城記念証含む)」の取り扱いがある城は 印 を載せています  
販売場所、価格等の詳細は直接施設へお問合せください

# 尾張 エリア

OWARI  
Area

愛知県の北西部に位置する尾張。織田家の基盤となった場所で、秀吉、家康ゆかりの史跡が目白押しです。



国宝・国史跡  
国宝5城のうち  
最古様式の  
木造天守



断崖に建つ、  
古風な国宝天守の城

## 01 国宝・犬山城 日本100名城

(犬山市)

### Outline

- 〒484-0082 犬山市犬山北古券65-2
- [一般] 550円 [小・中学生] 110円
- 9:00~17:00(入場は16:30まで)
- 12月29日~12月31日
- 0568-61-1711



国宝5城のうちの1つで、室町時代に木曾川沿いに建てられたといわれる平山城。天守は現存する日本最古の様式です。威厳を感じる天守はどこから見ても、絵になるカッコよさ。天守最上階からは木曾川、濃尾平野が一望できます。また、瓦に、亀の甲羅に桃がのった形のカワイイ魔よけがあるので、探してみてもは。

## Owari Areemap



国宝・犬山城をはじめとする、信長・秀吉・家康ゆかりの城や史跡が集まるエリア。名古屋から程近く、公共交通機関も発達していて、アクセスしやすい観光スポットです。お城などの歴史的建造物やグルメ、甲冑体験など楽しめる要素が盛りだくさんです。



## 03 有楽苑(国宝茶室如庵)

紅葉が美しい日本庭園。中には信長の弟・有楽斎が建てた国宝茶室の如庵と、重要文化財の旧正伝院書院が点在します。

### Outline

- 〒484-0081 犬山市御門前1
- 入苑料 1,200円
- 9:00~17:00
- 無休
- 0568-61-4608



## 04 清洲城 (清須市)

信長はこの城から  
桶狭間に出陣した!

若き信長が居を構えた織田家ゆかりの城。城とともに城下町も賑わっていました。信長はこの城から出陣し桶狭間で今川軍を破ったことから“出世城”としても知られています。その後、信長後継者を定める「清須会議」も行われました。しかし慶長15年(1610)徳川家康の命により、町の建物や機能全てが名古屋に移転する「清須越」が行われました。その際、取り壊されたかつての天守の資材の一部は、現在の名古屋城の西北櫓(別名「清須(洲)櫓」)で再利用されています。現在の清洲城は甲冑の試着体験や大河ドラマ衣装展示など、楽しく学べる歴史資料館となっています。

※「きよす」の表記は、歴史的に「清須」「清洲」両方の記載があります。清須市では慶長15年(1610)の「清須越」を境に以前を「清須」、以後を「清洲」と表記しています。

### Outline

- 〒452-0932 清須市朝日屋敷1-1
- [大人] 400円(団体300円)
- [小中学生] 200円(団体150円)
- 9:00~16:30
- 月曜(月曜が祝日・振替休日の場合は翌日)、年末(12月29日~12月31日)
- 052-409-7330
- ※10月は無休で営業します。



本格的な甲冑・打ち掛け試着体験が人気。“天守閣”をバックに信長や濃姫のキャラクターとAR記念撮影も楽しめます。



信長がはじめて築いた城。  
家康が本陣とした城。

## 05 小牧山城 純日本100名城

(小牧市)

信長が永禄6年(1563)にはじめて自ら築城した城。発掘調査により土の城から石の城へ進化を示す“石垣の城の原点”となる城であることがわかりました。また小牧・長久手の戦いでは家康が陣城としました。小牧山のふもとにある「れきしるこまき」では、プロジェクションマッピングなどによりわかりやすく小牧山の歴史を紹介しています。春には「小牧山さくらまつり」が開催され約10種・1,150本の満開の桜が楽しめます。



小牧山歴史館

主郭地区の転落石

れきしるこまき



### Outline

- 〒485-0046 小牧市堀の内1-1
- [小牧山] 無料
- [小牧山歴史館・れきしるこまき共通入場券] 一般:200円(中学生以下は無料)
- [小牧山歴史館] 9:00~16:30(入館は16:15まで)
- [れきしるこまき] 9:00~17:00(入館は16:30まで)
- 第3木曜日、年末年始(12月29日~1月3日)(祝日の場合は翌日)
- [小牧山歴史館] 0568-72-0712
- [れきしるこまき] 0568-48-4646



山頂の歴史館からは市街を一望できて、天下人気分を味わえます。信長が次に居城とした岐阜城も見えます。

ユネスコ無形文化遺産にもなった祭礼

## 06 津島神社 (津島市)

全国約3,000社の天王信仰の総本社で、信長・秀吉・尾張徳川家により厚く信仰され、社領の寄進や社殿の造営などが行われた神社。秀吉が寄進した楼門は重要文化財、豊臣秀頼が寄進した南門は県文化財に指定されています。そしてユネスコ無形文化遺産にも登録された「尾張津島天王祭」(毎年7月の第4土曜日及びその翌日)は、津島神社の祭礼として600年近くの伝統を誇ります。約500個の提灯をつけたまきわら船が天王川を行く姿は、美しく幻想的です。



尾張津島天王祭



### Outline

- 〒496-0851 津島市神明町1
- 0567-26-3216



07 曼陀羅寺 (江南市)



戦国時代、蜂須賀正勝の子家政が幼少期に塔頭のひとつ本誓院で手習いを受けた縁から位牌や手習い机を保管。正堂は家政が寄進。書院は関ヶ原の戦いの際、池田輝政らが軍議を開いた場所とされています。隣接する「曼陀羅寺公園」では毎年4月中旬～5月上旬に藤まつりが開催され、広さ4,700㎡、最長75mの藤棚に11品種の藤が色鮮やかに咲き誇ります。美しい藤色の景観は写真映え必至。

Outline

〒483-8336 江南市前飛保町寺町202  
0587-54-1111 (江南市商工観光課)



08 桶狭間古戦場伝説地 (豊明市)



桶狭間の戦いで今川義元が織田軍に討ち取られた場所で、今川義元の墓があり、国指定史跡となっています。敷地内に「とよあけ桶狭間ガイドボランティア案内所」があります。事前に予約して、案内してもらおうとより楽しめます。

Outline

〒470-1168 豊明市栄町南館11  
無料  
0562-92-8317 (豊明市生涯学習課)



09 古戦場公園 (長久手市)



天正12年(1584)に秀吉と家康が対決した小牧・長久手の戦いの史跡。両軍が激烈な戦いを繰り広げた主戦場跡地として知られ、討ち死にした池田恒興(勝入)・元助(庄九郎)の塚があります。公園内の郷土資料室では小牧・長久手の戦いや棒の手に関する資料が展示されています。

Outline

〒480-1121 長久手市武蔵塚204  
無料  
9:00～17:00 (古戦場公園内 郷土資料室) 0561-62-6230  
毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始(古戦場公園内 郷土資料室)



※古戦場公園再整備工事のため、公園内に一部立入禁止の場所があります。郷土資料室の出入口が南側に変更となっています。再整備工事は令和7年度末終了予定。

10 岩崎城 (日進市)



小牧・長久手の戦いで家康軍に与した丹羽氏の城で、秀吉方の行軍を阻止したことで有名です。城跡に建つ歴史記念館では、小牧・長久手の戦いを中心とした歴史をわかりやすく展示。展望塔の最上階からは日進市街が一望できます。

Outline

〒470-0131 日進市岩崎町市場67  
入館料無料  
9:00～17:00 (入館は16:30まで) 月曜日(祝日の場合は開館) 毎年12月28日～1月4日 0561-73-8825



尾張のまつり



桶狭間古戦場まつり (豊明市)

永禄3年(1560)、織田信長と今川義元が戦った桶狭間の戦いで戦死した武者の供養祭。一番の見どころは、300名を超える武者行列。甲冑を身に着けた人々が勇ましく勝鬨をあげる様子は圧巻で、毎年多くの歴史ファンが集います。

会期/6月第1土曜・日曜  
会場/高徳院、桶狭間古戦場伝説地ほか



清洲城信長まつり (清須市)

織田信長の天下取りの出発点となった清洲城一帯で開催。火銃銃演武、時代行列、メインステージ、清須市商工会主催の「清須産業まつり」のステージ、楽市楽座など、多彩なイベントで賑わいます。

会期/10月1日～31日 ※メインは10月の3連休中日の日曜  
会場/清洲城一帯



犬山祭 (犬山市)

寛永12年(1635)より始まったとされる祭礼。ユネスコ無形文化遺産に登録されている祭。3層の車山13輦と練り物3種が町に練り出し、からくり人形が披露されます。夜は各車山に365個もの提灯がとまり、桜並木を練り歩く光景も必見です。

会期/4月第1土曜・日曜  
会場/犬山城下町



column

合戦の舞台となった城、山城、天下人の城—愛知は城の野外博物館

ここ数年来、城めぐりのブームの勢いが止まらない。かつてはシニア世代の趣味とされた城めぐりだが今や歴史好きの若者や子どもたちまで人気広がっている。しかも天守のある近世の城だけでなく、土づくりの中世の山城に訪れる人も増えている。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康をはじめ数多くの武将たちを輩出した愛知県内には三英傑ゆかりの城をはじめ、規模の大小、立地もさまざまな城がおよそ800ヶ所以上(諸説あり)あるといわれる。わずかに石碑や案内板だけのものから往時の面影を残すものまでバラエティに富む。まさに城の野外ミュージアムといったところだ。

合戦の舞台となった城



織田信長が今川義元を討ち破った桶狭間の戦い。この戦いは、元々城をめぐる戦いであった。今川軍の拠点となった鳴海城、大高城に対し、信長はそれを取り囲むように付城戦法(臨時の城や皆で敵城を囲み補給を断つ戦法)で対抗した。鳴海城に対し善照寺砦や丹下砦、中島砦、大高城に対し丸根砦、鷲津砦を築いた。桶狭間古戦場公園(P.9)周辺には大高城跡、鷲津砦跡・丸根砦跡が残る。さらに今川義元が戦い前夜に軍議を開いた沓掛城は整備され見やすい。羽柴(豊臣)秀吉と徳川家康が唯一戦った小牧・長久手の戦いでは、家康が籠った小牧山城(P.4)周辺に対し秀吉はいくつかの陣城を築きにらみ合った。家康が本陣を置いた小牧山城は、もともと信長が築いた城。近年の発掘調査の成果によれば小牧山城の主郭(本丸)は石垣で囲まれ、城下町は整然と直線的な町割りがなされた近世城下町の原型とされる。織田信長・徳川家康連合軍と武田勝頼が戦った長篠・設楽原の戦いもまた城をめぐる戦いであった。戦いの発端となった長篠城(P.16)は、堀や土塁が残る他、敷地内に建つ保存館では戦いの全容を展示資料で見ることができる。

三河の山間に築かれた山城



三河の山間部には家康の祖先松平氏や三河に領土を拡大した武田氏、さらに巨大勢力に囲まれながら生き延びた三河の国衆ゆかりの山城がいくつも残る。建物は無いが巨大な自然石を活かした大給城(P.15)や武田方の最前線だった古宮城(P.18)は遺構の保存状態がよい。また戦国の山城の姿を考証し建物を復元した足助城(P.14)は山城の風景を今に伝える。

天下人の城



関ヶ原の戦いを経て天下の実権をにぎった徳川家康は、東海道防衛のために公儀普請による名古屋城(P.7)を築いた。名古屋城は、関ヶ原の戦いまでに蓄積された築城技術の粋を結集した鉄壁の城であった。しかも尾張徳川家の城でありながら、豊臣家滅亡後は将軍上洛時の宿泊御殿も兼ねた別格の城でもあった。戦災焼失した将軍家の御成御殿であった本丸御殿が、2018年6月に完成し、その威容が現代に蘇った。



# 名古屋エリア

NAGOYA Area

慶長15年、徳川家康がそれまで清須にあった町を移転して築いた城下町。花開いた武家文化の遺産を体感しましょう。



国特別史跡  
金シャチが輝く  
名古屋のシンボル

金の鯨がシンボル！  
日本最大級の天守を持つ名城。

## 01 名古屋城 (名古屋市中区)

Outline

- 〒460-0031 名古屋市中区本丸1-1
- 【大人】500円 [名古屋市内高齢者] 100円 [中学生以下] 無料
- 9:00~16:30 (本丸御殿・西の丸御蔵城宝館へのご入場は16:00)
- 12月29日~31日、1月1日 (イベントにより変動あり)
- 052-231-1700



徳川家康が東海道防衛の要塞として築いた名古屋城。以来、尾張徳川家の居城とされてきました。金の鯨をいただいた天守は今もなお名古屋のシンボル。

※現在、天守閣は閉館しています。

### 名古屋おもてなし武将隊®

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、前田利家、加藤清正、前田慶次ら名古屋にゆかりのある武将6人と、陣笠隊の4人で結成。日本人ならではの“おもてなしの心”とSAMURAIカルチャーを世界に発信するため、さまざまな活動を行っています。拠点とする名古屋城では、演武などのパフォーマンスを楽しめます。



©2009Nagoya Omotenashi Busho-Tai Secretariat

### 徳川家康と服部半蔵忍者隊®

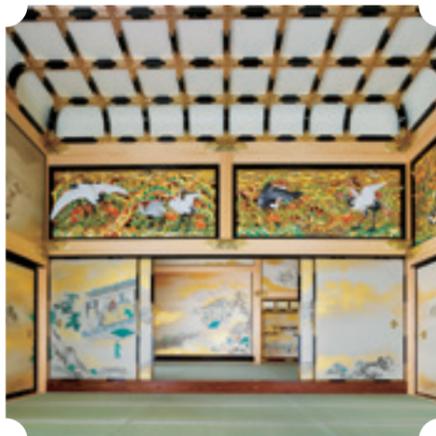
徳川家康は「本能寺の変」の際、服部半蔵と忍者の護衛により無事に岡崎城へ戻ることができ、これにより家康は半蔵を忍者隊の頭領に任命し、忍者隊は尾張国鳴海で取り立てられたことから鳴海伊賀衆と呼ばれました。この忍者隊が現代によみがえり、名古屋城では毎日一緒に記念撮影する等のおもてなしをしており、また土日祝日にはアクロバティックな演武(パフォーマンス)が楽しめます。



©aichi-ninja

### 02 名古屋城本丸御殿 (名古屋市中区)

名古屋城本丸御殿は、かつて天守とともに旧国宝第1号に指定された城郭建築の最高傑作でした。戦争で焼失したものの、約10年に及ぶ復元工事を経て2018年6月に完成公開を迎えました。「上洛殿」や「湯殿書院」など、絢爛豪華な御殿内の様子をご覧ください。



### 03 金シャチ横丁 (名古屋市中区)

名古屋城に隣接の、2つのゾーンに分かれた商業施設「金シャチ横丁」。尾張藩初代藩主・徳川義直にちなんで名付けられた正門周辺の「義直ゾーン」には、定番・老舗のなごやめしの名店が集結。斬新な政策を打ち出し、今日の名古屋文化の基礎を作った七代藩主・徳川宗春にちなんだ東門周辺の「宗春ゾーン」には、これからの名古屋の食文化をリードする気鋭の店舗がラインナップされています。



Outline

- 〒460-0032 名古屋市中区二の丸1-2、3 (宗春ゾーン)
- 〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-2-3、4、5 (義直ゾーン)
- 各店舗により異なる
- 各店舗により異なる
- 052-951-0788 (金シャチ横丁事務局)



## Nagoya Areamap



名古屋市交通局  
サイトへ



名古屋を代表する観光スポット・名古屋城をはじめ、尾張徳川家ゆかりの史跡、かつて武家屋敷が立ち並んだ旧い町並、由緒ある寺社仏閣などが点在。地下鉄や市バスを利用して、歴史散策を気軽に楽しむことができます。

尾張徳川家の大名道具と武家文化の宝庫

### 04 徳川美術館・徳川園 (名古屋市中区)

徳川家康の遺品を中心に、初代尾張藩主の義直から代々伝わる遺愛品など、さまざまな大名道具を展示。世界的にも貴重な国宝「源氏物語絵巻」を筆頭に、後藤藤四郎などの国宝・重文級の名物刀剣、武具類など、ここでしか見られない貴重な品を収蔵しています。隣接する徳川園は、尾張藩二代藩主・光友の隠居所として造営された屋敷跡。洗練された日本庭園の美意識にふられます。



徳川美術館 Outline

- 〒461-0023 名古屋市中区徳川町1017
- 【一般】1,600円 [高校・大学生]800円 [小・中学生]500円
- 10:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 月曜日 (祝日・振替休日の場合は直後の平日) 12月中旬~年始
- 052-935-6262
- ※毎週土曜日は小中高生無料です。

徳川園 Outline

- 〒461-0023 愛知県名古屋市中区徳川町1001
- 【一般・高校生・大学生】300円 [市内在住の65歳以上]100円 [中学生以下]無料
- 9:30~17:30 (入園は17:00まで)
- 月曜日 (祝日の場合は直後の平日) 年末年始(12月29日~1月1日)
- 052-935-8988



1900年の歴史を持つお社「熱田さん」

### 05 熱田神宮 (名古屋市中区)

景行天皇43年(113)創建、「熱田さん」の名で古くから崇敬を集めるお社。本殿に鎮まる熱田大神は、三種の神器の一つである草薙神剣を御神体とする天照大神とされています。約6万坪の境内は、樹齢1,000年を超えるという楠など多くの樹木が生い茂り、荘厳な雰囲気。静かな参道を拝殿めざして歩けば、心が清められるような気分になります。また、桶狭間の戦いの戦勝の御礼として信長が寄進した築地堀「信長堀」、武家や篤志家などからの奉納品を6,000点以上収蔵する宝物館・剣の宝庫 草薙館なども見逃せません。



Outline

- 〒456-8585
- 名古屋市中区神宮1丁目1-1
- 無料 (宝物館・草薙館 大人500円、小・中学生200円(平常展時))
- 宝物館・草薙館は9:00~16:30 (入館16:00まで)
- 宝物館は毎月最終水曜日とその翌日、12月25日~12月31日
- 草薙館は宝物館休館日の前日の火曜日、12月25日~12月31日
- 052-671-4151 (熱田神宮宮庁) ※9:00~16:30受付



06 豊國神社 (名古屋市中村区)



明治18年(1885)、豊臣秀吉の生誕地・尾張中村に創建。出世・開運・茶道・建設の神とし、全国から多くの参拝者が訪れます。

**Outline**  
〒453-0053 名古屋市中村区中村町木下屋敷 中村公園内  
無料  
9:30~16:30  
052-411-0003



07 名古屋市秀吉清正記念館 (名古屋市中村区)



秀吉の出世から豊臣家の滅亡まで、そして加藤清正ら尾張の武将たちについても詳しく紹介する歴史資料館です。

**Outline**  
〒453-0053 名古屋市中村区中村町茶ノ木25 中村公園文化プラザ2階  
入館無料 9:30~17:00  
月曜日(祝日の場合は直後の平日)、第4火曜日(祝日の場合は開館)、12月29日から1月3日、館内点検期間  
052-411-0035



08 妙行寺 (名古屋市中村区)



加藤清正の生誕の地に建てられた、正悦山妙行寺。山門を入ると右に鐘楼堂、正面には清正の銅像がそびえています。

**Outline**  
〒453-0053 名古屋市中村区中村町木下屋敷22  
無料  
052-412-3362

09 桶狭間古戦場公園 (名古屋市長区)



織田信長が今川義元を討ち破った桶狭間の戦いの中心地で、義元最期の地とされています。公園内には義元の墓や義元が馬をつないだとされる「ねずの木」、「首洗いの泉」跡があります。さらに信長、義元の銅像が建つほか、戦いに関わる城や砦の位置や地形を模したジオラマ公園になっています。公園近隣にも史跡が点在しています。

**Outline**  
〒458-0913 名古屋市長区桶狭間北3丁目  
無料 052-755-3593(桶狭間古戦場観光案内所)  
※観光案内所について:公園から徒歩3分、駐車場あり(5台)、トイレあり



信長攻路~桶狭間の戦い 人生大逆転街道

信長攻路とは織田信長が桶狭間の戦いで通ったといわれる道をもとにした、清洲城から桶狭間に至る3つの道のりのこと。街道沿いの信長ゆかりの寺社や史跡などに設置した銘板を道しるべに信長のごとく人生大逆転を祈願して歩いてみてください。



信長攻路 検索

10 荒子観音寺 (名古屋市中川区)



尾張四観音の一つであり、前田利家ゆかりの寺。利家が天正4年(1576)に本堂を再建しました。名古屋市内最古の建物とされる多宝塔は利家が生まれる前年の天文5年(1536)に再建されたものです。また、江戸時代に円空

が滞在したことから1,200余体の円空仏が現存。毎月第2土曜(13:00~16:00)に公開されています。(拝観料500円必要)

**Outline**  
〒454-0861 名古屋市中川区荒子町宮窓138  
無料 052-361-1778



名古屋のまつり



名古屋まつり (名古屋市中区)

名古屋の秋の風物詩であり、名古屋最大の祭り。豪華絢爛の郷土英傑行列では、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三英傑が街の中心部を練り歩きます。さらに「山車揃」や「神楽揃」などの文化財、フラワーカーなどが市内のメインストリートに登場します。

会期/10月第3土曜及びその翌日  
会場/名古屋市内中心部



太閤まつり (名古屋市中村区)

豊臣秀吉を祀る豊國神社の例祭。競輪場から中村公園までの道のりを練り歩く豊太閤頭巾行列、稚児行列などのほか、さまざまなイベントが催されます。

会期/5月第2土曜及びその翌日  
会場/中村公園一帯



桶狭間古戦場まつり 万灯会 (名古屋市長区)

桶狭間の戦いのゆかりの地・桶狭間古戦場公園一帯で行われる歴史祭り。日中には甲冑行列なども行われ、日没後には両軍戦死者を弔い約3,500本の灯ろうを大池の周りに点灯します。

会期/5月19日(日曜日以外の場合は直前の日曜日)  
会場/桶狭間古戦場公園、大池、長福寺一帯

知多  
エリア  
CHITA  
Area

家康の生母・於大の方の生誕地や、ゆかりのお寺があるなど、徳川家との接点が多いエリアです。

Chita  
Areemap



愛知県西部、西は伊勢湾、東は知多湾・三河湾に挟まれた知多半島。知多四国八十八ヶ所霊場が点在し、中には武将ゆかりの寺院も。レトロな町並散策や海の幸グルメ、マリンスポーツなども楽しめる人気の観光エリアです。

伊勢湾を望むお江の方ゆかりの城



三代将軍家光の母が最初に嫁いだ城

01 大野城址 (常滑市)

**Outline**  
〒479-0003 常滑市金山字城山  
無料  
展望台 3月~10月 9:00~17:00、11月~2月 9:00~16:00  
無休  
0569-34-8888(常滑市観光プラザ)



後に三代将軍徳川家光の母となるお江(浅井三姉妹の末妹)が、最初に嫁いだのが大野の領主・佐治一成です。現在は、大野城の跡地に城を模した展望台が設けられ、伊勢湾の大パノラマが楽しめる城山公園となっています。

02 野間大坊(美浜町)

鎌倉幕府初代将軍源頼朝の父義朝が眠るとされるお寺。鐘楼堂の梵鐘には建長2年(1250)の銘があり、国の重要文化財に指定されています。



**Outline**  
〒470-3235 知多郡美浜町野間東島50  
0569-87-0050 ※7:00~17:00



03 乾坤院(東浦町)

徳川家康の生母である於大の方の生家、水野家ゆかりのお寺で、文明7年(1475)、水野貞守が一族の氏寺として創建しました。境内には、於大の方の父で、緒川城主 水野忠政の墓をはじめとした水野家四代の墓所があります。

**Outline**  
〒470-2102 知多郡東浦町大字緒川字沙弥田4  
無料  
0562-83-2506



# 「武将のふるさと尾張・三河」から 全国へ飛び立った武将たち

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康一三人の天下人は、戦乱を収め天下静謐(せいひつ)のために、武家を頂点とした全国統一政権の樹立を目指した。三人の天下人に仕えた尾張・三河生まれの武将たちは各地(領国)に赴き、城を築き、国づくりを進めた。その子孫はさらに江戸二百六十年の泰平の世を築きあげ、各地の城下町は今日の都市の原型となり、そこに花開いた文化や芸能は今も伝えられる。

※下記の「尾張・三河の武将たちゆかりの地マップ」は、特定の時代の大名配置図ではありません。全国各地に赴いた尾張・三河の武将たちとその子孫は、三人の天下人やその後の徳川幕府との関わりに応じて幕末まで祖先から受け継いだ領国を安堵された家、転封(国替え)や廃絶(取り潰し)に見舞われた家などさまざまあり時代ごとに移り変わりました。

■……尾張出身武将 ■……三河出身武将



**堀尾 吉晴**  
(1543~1611)

尾張国の御供所(愛知県丹羽郡大口町)生まれ。最初に信長、さらに秀吉に仕え稲葉山城攻めで活躍。家康の関東移封後に浜松城主(静岡県浜松市)に。関ヶ原の戦い前に刺客に襲われ重傷を負うが子の忠氏が家康方として参陣。戦後は出雲(島根県)に加増転封され松江城(松江市)を築城した。



**水野 勝成**  
(1564~1651)

三河国刈谷(愛知県刈谷市)または岡崎(岡崎市)生まれ。家康の従兄弟。若年時より武功をたてるが、父忠重の家臣を斬り出奔。家康のとりなして父と和解。父の死後、刈谷城主(愛知県刈谷市)。大坂夏の陣で活躍。福島正則改易後、備後国(広島県)南部を与えられ福山城(広島県福山市)を築城。子孫は下総国結城藩(茨城県結城市)藩主として存続した。



**池田 輝政**  
(1564~1613)

尾張国の清須城下(愛知県清須市)生まれ。信長に仕えた父恒興の二男。父は秀吉と家康が戦った小牧・長久手の戦いで戦死。秀吉の仲介により家康二女を娶る。関ヶ原の戦いでは家康方として活躍。戦後播磨国(兵庫県)を与えられ姫路城(兵庫県姫路市)を築く。子孫は岡山藩(岡山県)、鳥取藩(鳥取県)の藩主として幕末まで存続。



**丹羽 長秀**  
(1535~1585)

尾張国生まれ(愛知県名古屋市)。若年時から信長に仕え数々の戦いに参加。武功ばかりではなく様々な奉行も務め、特に安土城の普請奉行で大役を果たす。信長死後は秀吉の天下取りを支え北庄城主(福井県福井市)に。子孫は二本松藩(福島県二本松市)藩主として幕末まで存続した。



**加藤 清正**  
(1562~1611)

尾張国の中村(愛知県名古屋市)生まれ。若年時より秀吉に仕える。秀吉のもとで武功を重ねた。関ヶ原の戦いでは九州で家康方として活躍。肥後一國(熊本県)を与えられ熊本城(熊本市)を築いた。名古屋城築城の際は天守台の石垣工事を担当した。家康と豊臣秀頼の二条城での会見を見届けた後、病死。



**福島 正則**  
(1561~1624)

尾張国の二ツ寺(愛知県あま市)生まれ。幼少期から秀吉に仕える。秀吉晩年には清須城主に抜擢。関ヶ原の戦いでは家康方の先鋒として活躍し、安芸広島城主(広島県広島市)に。名古屋城築城の際は、堀川の開削を担当した。晩年には大幅減封され信州川中島(長野県長野市)へ改易。子孫は旗本となった。



**加藤 嘉明**  
(1563~1631)

三河国の長良(愛知県西尾市)生まれ。三河の戦乱で流浪。父とともに秀吉に仕官。武功を重ね伊予(愛媛県)に所領を得る。関ヶ原の戦いでは家康方として活躍。松山城(松山市)を築いた。後に会津若松城主(福島県会津市)に栄転。子孫は近江水口藩(滋賀県甲賀市)藩主として幕末まで存続。



**山内 一豊**  
(1545~1605)

尾張国の黒田城(愛知県一宮市)または岩倉(愛知県岩倉市)生まれ。主家の岩倉織田氏が信長に滅ぼされ流浪。秀吉に仕え、家康の関東移封後に掛川城主(静岡県掛川市)に。関ヶ原の戦いでは家康方として活躍。戦後土佐一國(高知県)に加増転封され高知城(高知市)を築く。子孫は土佐藩藩主として幕末まで存続した。



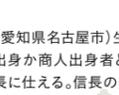
**蜂須賀 正勝**  
(1526~1586)

尾張国の蜂須賀(愛知県あま市)生まれ。木曾川の川並衆を率い水運業を営んでいたという。若き秀吉に仕え、調略や外交面に優れた才を発揮しその出世を支えた。秀吉より阿波国(徳島県)を与えられたが子に譲り隠居した。子孫は徳島藩(徳島県)藩主として幕末まで存続した。



**豊臣 秀吉**  
(1537~1598)

尾張国の中村(愛知県名古屋市)生まれ。侍ではなく農民出身商人出身者とされる。諸国流浪し信長に仕える。信長の美濃攻めの頃からとんとん拍子に出世。最初、木下藤吉郎秀吉を名乗り、次いで羽柴秀吉、豊臣秀吉となる。信長死後ライバルを次々と退け、1585年、朝廷から関白に任じられた。大坂、京都伏見を拠点に1590年には諸国の大名を従え天下統一を果たした。秀吉死後、豊臣家は大阪の陣で滅亡した。



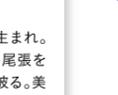
**織田 信長**  
(1534~1582)

尾張国の勝幡城(愛知県稲沢市)生まれ。家督相続後は親族や兄弟を滅ぼし尾張を統一。桶狭間の戦いで今川義元を破る。美濃(岐阜県)を奪い取り足利義昭を奉じて室町幕府を再興した。尾張・美濃・近江(滋賀県)を拠点に各地に勢力を拡大。1582年、京都本能寺宿泊中に明智光秀の謀反に遭い自害。子孫は出羽天童藩(山形県天童市)や丹波柏原藩(兵庫県丹波市)藩主として幕末まで存続した。



**徳川 家康**  
(1542~1616)

三河国の岡崎城(愛知県岡崎市)生まれ。幼少期に織田家次いで今川家の人質になる。桶狭間の戦いを経て信長と同盟を結び三河を統一。以後、今川家や武田家と戦う。信長死後、甲信方面に勢力を伸ばす。小牧・長久手の戦いで秀吉と対決するも臣従し、秀吉の天下取りを支えた。関ヶ原の戦いの後、征夷大将軍に任じられ江戸に幕府を開く。子孫は徳川将軍家、さらには御三家など親藩大名とその一族に広がり江戸二百六十年、天下を掌握した。



**服部半蔵正成**  
(1542~1596)

三河国(愛知県)生まれ。父は伊賀(三重県伊賀市)生まれの忍者(上忍)だが、家康祖父に仕えた。正成は忍者ではなく武士として家康のもとで武功を重ねた。本能寺の変による家康の危機(伊賀越え)の際、家康一行を警固し三河へ送り届けた。その功績により家康を守った伊賀忍者の統括を任せられた。

## column

江戸時代の大名の約7割の先祖は、尾張・三河出身者。

江戸時代後期の全国の大名(藩主)の約7割は、その先祖が尾張・三河出身武将だった過去を持つ。そもそも江戸時代の大名は、徳川将軍家の親戚である(親藩)大名、関ヶ原の戦い以前から徳川家の家臣だった(譜代)大名、関ヶ原の戦い前後に臣従した(外様)大名と3つのカテゴリーに分類される。

親藩は家康の血をひく三河出身、譜代の多くも三河出身だが、井伊家や小笠原家など一部他国出身者もいた。外様は鎌倉時代以来の島津家や徳川家成立以前に戦国大名化した伊達家、上杉家、毛利家など以外は、信長や秀吉に引き立てられた尾張出身者が多くを占め、美濃、近江出身者が続いた。

信長、秀吉、家康3人によって天下が統一された結果、その家臣である尾張・三河出身者とその子孫が全国に配置されていった。



**佐々 成政**  
(?~1588)

尾張国の比良城(愛知県名古屋)生まれ。柴田勝家率いる北陸方面軍の武将として越中富山城(富山県富山市)を与えられ活躍。秀吉と家康が戦った小牧・長久手の戦いで秀吉方の前田利家と戦う。後に秀吉に降伏。秀吉から肥後国(熊本県)を与えられたが領国統治に失敗して切腹。



**前田 利家**  
(1537~1599)

尾張国の荒子城(愛知県名古屋市)生まれ。若年時より信長に仕える。柴田勝家率いる北陸方面軍の武将として活躍。信長死後、秀吉に仕え金沢城主(石川県金沢市)に。家康とともに晩年の秀吉を支えた。子孫は加賀藩(石川県、富山県)藩主として幕末まで存続した。



**柴田 勝家**  
(?~1583)

尾張国の下社城(愛知県名古屋市)生まれ。最初、信長弟の家臣として信長と戦うが敗れ、臣従した。信長第一の猛将として北陸方面軍の大將として越前(福井県)を与えられ北庄城(福井市)を築く。信長死後、妹のお市の方を娶るが秀吉と対立。賤ヶ岳の戦いに敗れて自害した。



**石川 数正**  
(?~1592)

三河国(愛知県)生まれ。家康幼少期の人質時代から近侍として仕えた。桶狭間の戦い後、今川家人質であった正室築山殿、嫡男信康の解放交渉、信長と家康の同盟交渉など外交に手腕を発揮。小牧・長久手の戦いに参加。戦後、突然家康の下から出奔し、秀吉に仕えた。家康の関東移封後、秀吉により信州松本(長野県松本市)を築城した。



**神原 康政**  
(1548~1606)

三河国上野郷(愛知県豊田市)生まれ。三河一向一揆で初陣。その武功により家康から「康」の字を与えられ康政と名乗る。小牧・長久手の戦いでは秀吉を挑発する激文で注目される。長久手の戦いでも活躍。家康の関東移封に伴い上野国館林城主(群馬県館林市)に。子孫は越後国高田藩(新潟県上越市)藩主として存続した。



**酒井 忠次**  
(1527~1596)

三河国井田城(愛知県岡崎市)生まれ。松平家には家康父の時代から仕える。家康の駿府人質生活に従い、桶狭間の戦いの後は、三河統一戦などで武功をあげ、家康の右腕として三河吉田城主(愛知県豊橋市)に。徳川四天王の筆頭。子孫は出羽庄内藩(山形県鶴岡市)藩主として幕末まで存続した。



**本多 忠勝**  
(1548~1610)

三河国蔵前(愛知県岡崎市)生まれ。大高城兵糧入れで初陣。その後も数多くの戦いに参加。50余りの戦いに参加したが一度として傷を負ったことがないという逸話が残る。家康の関東移封に伴い上総国大多喜城主(千葉県大多喜町)に。関ヶ原の戦い後、西国への備えとして伊勢国桑名城(三重県桑名市)を与えられ城を整備した。子孫は岡崎藩主として幕末まで存続した。



**大久保 忠世**  
(1532~1594)

三河国上和田(愛知県岡崎市)生まれ。若き家康を支え武功を重ねる。長篠・設楽原の戦いでは信長の賞賛を受け、家康から「ほら貝」を与えられた。家康の関東移封後、秀吉の命もあり小田原城(神奈川県小田原市)を与えられる。弟・彦左衛門が審した「三河物語」の主人公でもある。子孫は小田原藩主として幕末まで存続した。



**浅野 長政**  
(1547~1611)

尾張国春日井郡の土豪安井氏の子として生まれる(愛知県北名古屋市)。叔父の浅野長勝の嫡養子となり浅野家の家督を継ぐ。長勝の養女おねが、秀吉に嫁いだため早くから秀吉を支えた。秀吉により甲斐国(山梨県)を与えられる。子孫は安芸広島藩(広島県)藩主として幕末まで存続した。

画像所蔵先／織田信長画像(神戸市立博物館)、豊臣秀吉画像(名古屋市秀吉清正記念館)、徳川家康画像(大阪城天守閣)、柴田勝家画像(国史館大坂)、前田利家画像(福井市立郷土歴史博物館)、丹羽長秀画像(大隣寺)、前田利家画像(池田輝政画像(鳥取県立博物館)、加藤嘉明画像(甲賀市水口歴史民俗資料館)、堀尾吉晴画像(新潟県史記(あま市美和歴史民俗資料館)、山内一豊画像(高知県立高知城歴史博物館)、酒井忠次画像(徳川十六将図(致道博物館)、尾山神社蔵)、佐々成政画像(富山市郷土博物館)、蜂須賀正勝複製画像(あま市美和歴史民俗資料館)、加藤清正複製画像(あま市美和歴史民俗資料館)、福島正則複製画像(あま市美和歴史民俗資料館)、本多忠勝像(岡崎市岡崎公園)、神原康政複製画像(長久手市郷土資料館)、大久保忠世画像(徳川十六将図(致道博物館)、水野勝成画像(賢忠寺蔵)、服部正成画像(徳川十六将図(致道博物館))

# 西三河エリア

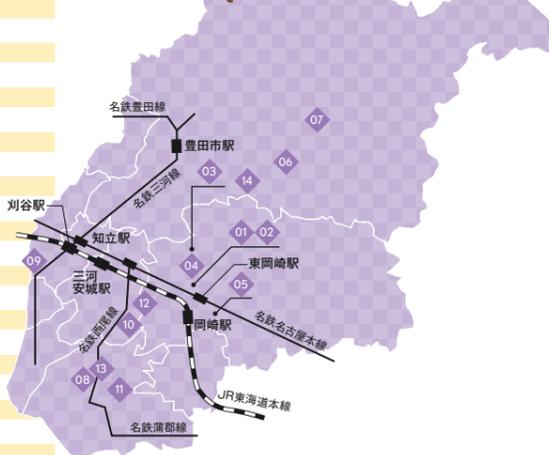
NISHI MIKAWA Area

徳川家の故郷・岡崎を中心に、  
史跡や観光スポットが充実。  
何度も訪れたい重要エリア。



「神君(徳川家康)生誕の城」として長らく神聖視された城。復興天守の内部は資料館です。1階には旧天守の心柱だった礎石が残っておりパワースポットとして知られています。春には公園一帯に桜が咲き誇り、お花見スポットとしても人気を集めています。

## Nishi Mikawa Areamap



徳川家康の故郷・岡崎のある西三河エリア。東海道五十三次の宿場町でもあり、歴史情緒を感じさせるスポットがいっぱい。また家康の先祖・松平氏発祥の松平郷をはじめゆかりの史跡も多く、歴史好きの聖地ともいえるエリアです。

家康 生誕の城 三河武士の聖地



制作者／神戸峰男  
令和元年 名鉄東岡崎駅前登壇

堂々、白亜の天守！  
歴史の町・岡崎のシンボル

### 01 岡崎城 (岡崎市)



**Outline**  
 ① 〒444-0052 岡崎市康生町561-1  
 ② [一般大人]300円 [一般小人]150円  
 ③ 9:00～17:00(入館は16:30まで)  
 ④ 年末(12月29日～31日)  
 ⑤ 0564-22-2122



### 02 三河武士のやかた 家康館 (岡崎市)

家康の出生から天下統一までと、それを支えた三河武士たちについて常設展示室で解説。企画展示室では岡崎の歴史、武士や江戸の文化に関連した企画展を開催。刀・兜の重さを体験できるコーナーもあり、武将気分を楽しめます。

**Outline**  
 ① 〒444-0052 岡崎市康生町561-1  
 ② [一般(大人/中学生以上)]400円 [一般(小人/5才以上)]200円  
 ③ 9:00から17:00まで(入館は16:30まで)  
 ④ 年末(12月29日～12月31日)  
 ⑤ 0564-24-2204



### グレート家康公「葵」武将隊

家康公を中心に徳川四天王、そして徳川軍の忍頭、服部半蔵。6人の戦国武将が、紙製甲冑を身にまとい、来て！観て！一緒に踊る！岡崎公園内でのおもてなしや演武、来場者参加型のパフォーマンスで観光客やファンを楽しませます。



### 03 大樹寺 (岡崎市)

松平家・徳川將軍家の菩提寺として知られる名刹。家康をはじめ歴代將軍の等身大の位牌が安置されています。山門から総門を通して、はるか南方に岡崎城をのぞむ伽藍配置にも注目。



**Outline**  
 ① 〒444-2121 岡崎市鴨田町字広元5-1  
 ② [宝物(文化財)拝観]一人500円(小中学生 300円、幼児 無料)団体割引(15名以上)一人 400円  
 ③ 9:00～16:30  
 ④ 無休  
 ⑤ 0564-21-3917



### 04 伊賀八幡宮 (岡崎市)

家康の祖・安城松平氏の四代親忠が松平家の氏神として武運長久・子孫繁栄祈願のため、伊賀国(三重県)から勧請したといわれています。家康の父祖や家康自身も戦いの前には祈願したと伝えられています。



**Outline**  
 ① 〒444-0075 岡崎市伊賀町東郷中86  
 ② 無料  
 ③ 0564-26-2789

### 家康行列

家康を中心とした700余名の武者、騎馬の行列が練り歩き、戦国時代にタイムスリップしたような時代絵巻を展開。

**Outline**  
 会期／原則4月第1日曜日  
 開催場所／伊賀八幡宮、乙川河川敷など  
 ④ 0564-23-6216(岡崎市観光推進課)  
 0564-64-1637(岡崎市観光協会)

### 05 六所神社 (岡崎市)

徳川家康誕生の際には、松平氏の産土神としての拜礼があったと言われる神社。5万石以上の大名だけが許されたという石段を上ると、鮮やかな極彩色の楼門が現れます。



**Outline**  
 ① 〒444-0864 岡崎市明大寺町字耳取44  
 ② 無料  
 ③ 0564-51-2930



松平氏の発祥地！自然豊かな山里

### 06 松平郷 (豊田市)

松平氏発祥の地。自然豊かな山里、松平氏の館跡地に建つ「松平東照宮」や菩提寺「高月院」など、松平家と徳川家ゆかりの史跡も。武家屋敷風の休憩所「天下茶屋」では、名物・天下もちを味わえます。約400年前から続く「松平春まつり」では古式に則った神事・お水取りが行われるほか、手筒花火の奉納なども披露されます。



松平春まつり



高月院



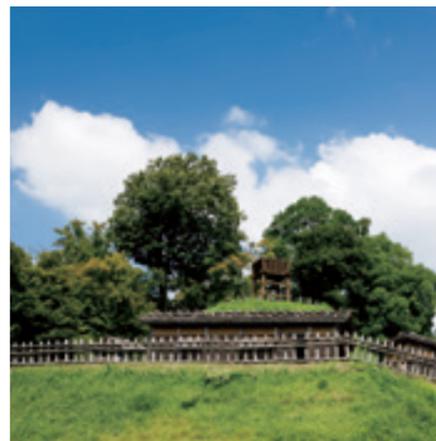
松平東照宮

**Outline**  
 ① 〒444-2202 豊田市松平町赤原9-1(松平郷)  
 ② 9:00～15:00  
 ③ 水曜、年末年始  
 ④ 0565-58-1629 (松平郷ふるさとづくり委員会事務局)※FAXも可



### 07 足助城 (豊田市)

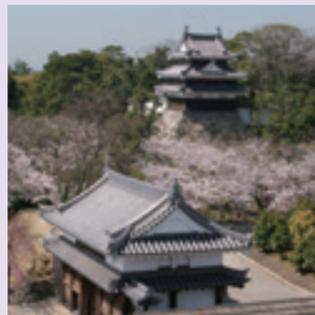
宿場町として栄えた面影を残す足助の町並みや信州への街道を見下ろす足助城。防備のための木柵、物見台のほか、本丸には高櫓と長屋が復元されています。戦国期の山城の姿を理解するには格好の城です。



**Outline**  
 ① 〒444-2424 豊田市足助町須沢39-2  
 ② 大人300円 高校生100円(中学生以下無料)  
 ③ 9:00～16:30(入城は16:00まで)  
 ④ 木曜日(4月29日～5月5日、11月除く)、年末年始(12月25日～1月5日)  
 ⑤ 0565-62-0770



08 西尾城 (西尾市)



徳川家康が鶴の城「鶴城(かくじょう)」と名付けたといわれ、江戸時代には代々譜代大名が城主を勤めた西尾城。今では西尾市歴史公園として、丑寅櫓(うしとらやぐら)や鎌石門(ちゅうじゃくもん)が木造で再建され、屏風折れの土塀や天守台も復元されています。京都から移築された数寄屋造りの旧近衛邸では、西尾名産のお抹茶を楽しむことができます。

Outline

- 〒445-0864 西尾市鏡城町231-1
- 月曜日(祝日を除く)、12月29日～1月3日
- 0563-54-6758



09 刈谷市歴史博物館 (刈谷市)



2019年3月に刈谷城址のある亀城公園の近くに開館した博物館。刈谷の歴史に親しみ学ぶことのできる施設です。

刈谷藩主ゆかりの品や、刈谷城の復元ジオラマが展示されている歴史ひろばの他、お祭りひろば、企画展示室の3つの展示室があり、広く刈谷市の歴史を知ることができます。

Outline

- 〒448-0838 刈谷市逢妻町4-25-1
- 無料 ※企画展は有料の場合あり
- 9:00～17:00
- 月曜日(月曜が祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始など
- 0566-63-6100



10 本證寺 (安城市)



鎌倉時代後期に慶円(きょうえん)によって創建されたと伝えられる真宗寺院。二重の堀と土塁を持ちます。永禄6年(1563)に起こった三河一向一揆では、中心寺院として本願寺門徒を率いて徳川家康と戦いました。一揆後の禁教を経て、天正13年(1585)に許されると本堂などを再建。江戸時代には中本山の一つとして再興を遂げました。

Outline

- 〒444-1165 安城市野寺町野寺26
- 無料
- 0566-99-0221

11 華蔵寺 (西尾市)



「忠臣蔵」では敵役とされている吉良上野介義央の菩提寺。地元では治水や新田開発などの功績により名君と慕われています。義央の命日(12月14日)には、法要(毎歳忌)が営まれ、遠方からも多くの人を訪れます。当日は御影堂が開帳され、義央らの木像を拝観することができます。

Outline

- 〒444-0531 西尾市吉良町岡山山王山59
- 無料
- 0563-35-0935

12 安祥城址 (安城城跡) (安城市)



室町時代の永享年間(1429～1441)志真荘の地頭和田親平が築城したといわれます。戦国時代には、徳川氏の祖、安城松平氏が居城。現在、本丸跡に大乘寺、二の丸跡に八幡社、周囲に堀や土塁などが残っています。

Outline

- 〒446-0026 安城市安城町赤塚1
- 無料
- 0566-77-6655(安城市歴史博物館)

13 実相寺 (西尾市)



足利一門で吉良荘の地頭であった中世吉良氏の菩提寺として文永8年(1271)に建立されました。春には紅梅やしだれ桜が見ごろを迎え、年に一度の花祭り(灌仏会:毎年4月の第2日曜日)には多くの参拝者で賑わいます。咲き誇る花々を愛でながら甘茶をいただくことができます。

Outline

- 〒445-0894 西尾市上町下屋敷15
- 無料
- 0563-57-4364

14 大給城址 (豊田市)



大給松平氏の居城として知られる山城。見どころは自然露出した巨石群を利用した城の遺構と、全国的にも珍しい石壁で囲われた取水施設の「水ノ手曲輪」、そして主郭(本丸)からの抜群の眺望です。山の中には大給松平氏初代・乗元の墓が鎮座しています。

Outline

- 〒444-2217 豊田市大内町城下
- 無料
- 0565-77-8089(松平観光協会)

東三河  
エリア

HIGASHI  
MIKAWA  
Area

長篠・設楽原の戦いの戦跡、  
戦国武将ゆかりの城址など、  
歴史ファン必見のスポットが点在。

02 長篠城址史跡保存館 (新城市)

長篠城をめぐる攻防に関する資料を保存・展示し、この地の歴史を伝える資料館。周辺に残る合戦にまつわる数々の史跡も要チェック。

Outline

- 〒441-1634 新城市長篠字市場22-1
- 一般220円、団体(20人以上)170円
- 小・中学生100円、団体(20人以上)50円
- 9:00～17:00(入館は16:30まで)
- 毎週火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)
- 0536-32-0162

03 新城市設楽原歴史資料館 (新城市)

戦国時代の分岐点となった長篠・設楽原の戦いの経緯、火縄銃の果たした役割などを展示しています。

Outline

- 〒441-1305 新城市竹広字信玄原552
- 一般330円、団体(20人以上)220円
- 小・中学生100円、団体(20人以上)50円
- 9:00～17:00(入館は16:30まで)
- 毎週火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)
- 0536-22-0673



断崖絶壁の地に築かれた  
“落ちない城”

01 長篠城跡 (新城市)

日本  
100  
名城

Outline

- 〒441-1634 新城市長篠字市場22-1
- 無料
- 0536-32-0162(長篠城址史跡保存館)

永正5年(1508)、菅沼元成によって築かれ、その後、武田家、徳川家により整備された土の城。天正3年(1575)家康の家臣・奥平信昌が城主のとき、武田勝頼軍の猛攻に遭いながら耐え抜きました。土塁や堀が残っています。

東三河のまつり



長篠合戦のぼりまつり

長篠・設楽原の戦いで倒れた両軍将士の霊を慰めるために、関係将士の紋入りのぼり数千本を献植して行うお祭り。鎧・兜に身を固めた鉄砲隊による火縄銃の演武、勇壮な長篠陣太鼓は必見です。物産展での買い物も楽しみのひとつ。

会期/5月5日  
会場/長篠城跡



作手古城まつり

戦国武将・奥平氏の居城亀山城跡と隣接する「亀山城跡・つくで手作り村」で毎年5月に開催。長篠・設楽原鉄砲隊による火縄銃の演武や地元中学生らの太鼓集団による和太鼓演奏、青年団によるアトラクションなど見どころいっぱい。

会期/5月第2日曜  
会場/亀山城跡・つくで手作り村



設楽原決戦場まつり

日本で初めて鉄砲が大量に使われた長篠・設楽原の戦い。その古戦場を舞台に火縄銃の演武や小・中学生による武者行列、子ども武者による馬防柵演武などが行われ、当時の様子を再現します。

会期/6月第1日曜  
会場/設楽原歴史資料館周辺

# 東三河エリア

今川・武田・松平の攻防が繰り返された東三河の拠点

## 04 吉田城 (豊橋市) 続日本100名城 印

1505年、牧野古白が築城し、豊川を天然の堀とした名城。徳川家康は、東三河の要として、城下に酒井忠次を置きました。後年、姫路城を整備した、池田輝政が近世城郭として整備・拡張しました。石垣や堀が随所に残るほか、鉄槍(くろがねやぐら)が模倣復興されています。本丸周辺の石垣の中には名古屋城築城の際に残った石材が転用され、さまざまな印が刻まれた石が確認できます。



### Outline

- 〒440-0801 豊橋市今橋町3
- 無料
- 【吉田城鉄槍の内部公開】火/水/木/金/土/日 10:00~15:00
- 月曜日及び12月29日~1月3日 (月が祝日の場合は開館します。)
- 0532-51-2430 豊橋市観光プロモーション課(吉田城) (豊橋公園に関しては豊橋市公園緑地課(0532-51-2650))



# まだまだあるぞ! サムライスポット

## 07 田峯城 (設楽町) 印



戦国時代における山家三方衆のうち、奥三河一帯を支配した田峯菅沼氏五代の居城。奥三河を代表する山城です。本丸ほか

の遺構が残され、現在は本丸御殿、本丸大手門、搦手門が復元(類推)されています。標高387mに構えた山城の物見台から見下ろす寒狭川とV字渓谷の眺望は圧巻。



### Outline

- 〒441-2221 設楽町田峯字城9
- 月曜日、祝日の翌日、年末年始
- 【大人】210円 【小人】100円
- 0536-64-5505
- 9:00~16:00

## 08 古宮城跡 (新城市) 続日本100名城



武田信玄が三河進出の拠点のために重臣・馬場信房に命じ元亀3年(1571)に築城したといわれています。独立した丘陵全体に堀や土塁を縦横に張り巡らせた複雑な曲輪配置を見ることができます。山城ファン必見の土の城です。

### Outline

- 〒441-1414 新城市作手清岳字宮山
- 無料
- 0536-22-0673(設楽原歴史資料館)

## 09 田原城 (田原市)



文明12年(1480)頃に戸田宗光によって築かれ、同氏の三河湾支配の拠点となった城。まわりを海に囲まれた堅牢な城としても知られています。現在は二ノ丸跡に田原市博物館が建てられ、田原藩家老であり、画

家蘭学者として名を馳せた渡辺華山の関係資料(国の重要文化財)をはじめとする貴重な資料が展示されています。



### Outline

- 〒441-3421 田原市田原町巴江11-1
- 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始(12月28日~1月4日)
- 一般 310円(平常展時)、小中学生 150円(平常展時)
- 0531-22-1720
- 9:00~17:00 (入館は16:30まで)

## 10 伊奈城趾公園 (豊川市)



享祿2年(1529)、徳川家康の祖父・松平清康が吉田城を攻めた際、当時の伊奈城主・本多正忠の活躍で勝利。凱旋の祝宴で城内の花々池にあった水葵の葉を敷いて酒肴を出したところ、清康は大層喜んで本多家の家紋だった「立葵の紋」を松平家の家紋に、その後、徳川家康の代に「三つ葉葵の紋」となったと伝えられています。徳川家の家紋「葵の紋」発祥ゆかりの地として整備されたのが、伊奈城趾公園です。

### Outline

- 〒441-0105 豊川市伊奈町柳38
- 無料
- 0533-89-2206(豊川市観光協会)

三代将軍徳川家光が建立した仁王門は国の重要文化財

## 05 鳳来寺山 (新城市)

紅葉の名所として名高く、山全体が国の名勝・天然記念物に指定されている自然の宝庫。中腹にある古刹・鳳来寺は徳川家康誕生ゆかりの地で、跡継ぎのなかった父松平広忠と母於大の方が鳳来寺に祈願に訪れた後に家康を授かったと言われています。また井伊直政が匿われた地としても知られています。1,425段の石段が続く参道には、樹齢800年、高さ60mを誇る傘杉がそびえるなど、石段を上るごとに奥三河の自然を満喫できます。



### Outline

- 〒441-1944 新城市門谷字鳳来寺
- 鳳来寺山パークウェイ駐車場(有料) 普通車550円 二輪車220円(通常期)
- 駐車場の営業時間は8:00~18:00
- 0536-35-1004(鳳来寺本堂)



三英傑の信仰を集めた 商売繁盛の神様

## 06 豊川稲荷 (豊川市)

日本三大稲荷のひとつに数えられ、商売繁盛の神様として全国的に知られる「豊川稲荷」。室町時代に創建されて以来、信長・秀吉・家康などの武将や、渡辺華山など文人たちからの信仰を集めてきました。現在も年間数百万人の参拝客が訪れる人気スポット。門前町ではご当地グルメ豊川いなり寿司の食べ歩きをすることができます。



### Outline

- 〒442-8538 豊川市豊川町1
- ご祈祷は有料
- 【御祈祷受付時間】8:00~14:30 (正月三か日、毎月1日を除く)
- 【電話受付】9:00~17:00
- 0533-85-2030



# Higashi Mikawa Areamap

大化以前、豊かな実りを意味する「ほの国」と呼ばれた東三河。江戸時代には吉田藩の城下町として栄えた豊橋市を中心に、吉田宿・二川宿など宿場町の名残をとどめる町並散策、古戦場や城址探訪などを楽しめる歴史エリアです。



# 愛知県全域MAP



凡 例

- 道の駅 (Blue house icon)
- 空港 (Airplane icon)
- 国道 (Shield icon with number)
- 新幹線 (Blue dashed line)
- JR線 (Black dashed line)
- その他の鉄道 (Grey solid line)
- 高速道路 (Blue double line)
- 有料道路 (Green double line)



東京から

新幹線 約1時間40分

「名古屋」駅 ———— 「東京」駅

大阪から

新幹線 約50分

「新大阪」駅 ———— 「名古屋」駅



企画／愛知県観光コンベンション局観光振興課  
 監修／小和田 哲男(静岡大学名誉教授)  
 発行／2018年3月発行 2019年12月改訂  
 2024年3月改訂

